



千葉氏の本拠地を潤す湧水にまつられた常胤ゆかりの神社

紅嶽弁財天は千葉常胤ゆかりの神社です。伝承によれば、常胤が子孫繁栄と福寿を祈願していたところ、夢枕に弁財天が現れたので、鎌倉の弁谷べんがやつ(現在の神奈川県鎌倉市材木座)にあった弁財天をここに移したといわれています。

この地にはかつて湧き水があり、千葉のまちを流れて都川へ注ぐ葎川よしの水源の一つになっていました。千葉氏の本領である千葉荘ちばのしょうを潤す水源に、水の神でもある弁財天をまつったことから、千葉荘の繁栄を願う常胤の思いがしのべられます。



戦前の紅嶽弁財天

古い記録によると、常胤と嫡男胤政たねまさ(正)は「弁谷殿」と呼ばれていたとあり、鎌倉では弁谷に屋敷を構えていたと考えられています(『千学集抜粹』『鎌倉志』)。常胤の役職である「介すけ」の中国風の呼び名「別駕べつが」から、常胤が住む谷を「別駕谷べつがやつ」と呼び、これが転じて「弁谷」になったといわれています。また、「弁谷」は「紅谷」とも書かれており、「紅嶽」という名前は「弁谷」に由来すると思われる。



弁谷の地に立つ石碑(鎌倉市材木座)